

Subject : **Japanese**

Production of Courseware
 - Content for Post Graduate Courses

Paper No. 02 : 日本語学 (Japanese Linguistics)

Module 23 : 複文 (2) (Complex Sentence (2))



Development Team

Principal Investigator:

Prof. Anita Khanna

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator:

Prof. Prashant Pardeshi

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer:

Prof. Emerita Yuriko Sunakawa

University of Tsukuba

Content Reviewer:

Prof. Kaoru Horie


Nagoya University

Japanese

Japanese Linguistics

複文 (2) (Complex Sentence (2))

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	複文 (2) (Complex Sentence (2))
Module ID	JPN-P02-M23
Quadrant 1	E-Text

 ePathshala
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

複文 (2) (Complex Sentence (2))

(5) 私がやるように, 口を大きく開いて発音してみてください。 (様態)

(6) その試験は, 考えていたほど 難しいものではなかった。 (程度)

副詞節を表す形式には, 述語の活用形, テ形+取り立て助詞, 形式名詞+ (格助詞), 接続助詞, 接続助詞的な複合形式など, さまざまである。

(7) 質問がなければ, 今日の授業はこれで終わります。 (形容詞の活用形)

(8) 一生懸命練習しても, ちっとも上達しない。 (動詞のテ形+取り立て助詞)

(9) 電車が遅れたために遅刻した。 (形式名詞+格助詞)

(10) 風邪を引いたから休みます。 (接続助詞)

(11) 約束したからには行かなければならない。 (接続助詞的な複合形式)

以下に, 代表的な副詞節として「条件節」「原因・理由節」「時間節」「目的節」を取りあげる。

2. 条件節

「条件節」とは、主節の表す事態の条件になるような依存関係を表す節である。

条件には順接条件と逆接条件があり、次の形式で表される。

順接条件：たら と ば なら ては とすれば となれば とすると となると
ようでは, etc.

逆接条件：ても のに たって としても にしても にしろ にせよ ようが
ところで, etc.

順接条件には、ある事態が起こることが、必ず別の事態が起こることを意味すると
いう法則的な条件と、ある事態が別の事態に個別に依存して起こることを意味する
個別的な条件がある。(12)が前者の例、(13)が後者の例である。

(12) 春が来れば花が咲く。

(13) 弟が口答えしたら、父がひどく怒り始めた。

順接条件には、(13)のようにすでに起こった事実を表す場合もあるし、仮定的な
条件を表す場合もある。前者は「確定条件」、後者は「仮定条件」と呼ばれている。

かていじょうけん げんじつ お かていじょうけん あらわ ば あい げんじつ お
 仮定条件には、現実(げんじつ)に起こりうる(おこりうる)仮定条件(かていじょうけん)を表す場合と、現実(げんじつ)には起こりえない

はんじじつてき かていじょうけん あらわ ば あい ぜんしゃ こうしゃ れい
 反事実的な仮定条件(はんじじつてき)を表す場合がある。(14)が前者(ぜんしゃ)、(15)が後者の例である。

あめ ふ しあい ちゅうし
 (14) もし雨が降ったら試合は中止にしましょう。

たす わたし いのち
 (15) あなたが助けてくださらなかったら、私の命はなかったでしょう。

ぎやくせつじょうけん じたい いぞんかんけい みと うえ な た
 逆接条件とは、2つの事態の依存関係を認めた上で、それが成り立たないことを
 あらわ たと つうじょう べんきょう ごうかく あいだ
 表すものである。例えば、通常は「勉強する」と「合格する」ことの間に
 べんきょう ごうかく いぞんかんけい ば あい あらわ
 「勉強しないと合格できない」という依存関係がある場合、そうでないことを表すの
 べんきょう ごうかく ひょうげん つか
 に「勉強しなくても合格できる」という表現が使われる。

かんけい ほうそくてき こべつてき ほうそくてき こべつてき
 この関係にも法則的なものと個別的なものがある。(16)は法則的、(17)は個別的なも
 れい
 のの例である。

おや こ そだ
 (16) 親がなくても子は育つ。

あめ ふ しあい ちゅうし
 (17) もし雨が降ったとしても試合は中止しない。

ぎやくせつじょうけん かていじょうけん かくていじょうけん
 また、逆接条件にも(16)(17)のような仮定条件と、(18)のような確定条件がある。

(18) いくら薬を飲んでも, 熱が下がらなかった。

3. 原因・理由節

「原因・理由節」とは、主節の表す事態との因果関係を表す節である。以下のよ
うな形式で表される。

から ので ため (に) テ形 連用形 のだから からは 以上 うえは だ
けに, etc.

原因・理由節には、事態の原因や理由を表す場合と判断の理由や根拠を表す場合がある。(19)が前者、(20)が後者の例である。

(19) 雨が降ったために道路がぬれている。

(20) 道路がぬれているから, 雨が降ったんだろう。

4. 時間節

「時間節」とは、主節の表す事態の起こる時を表す節である。時間節が表す時と

しては、① 主節の表す事態が起きる時と同時、② それより前または後、③ 時間節が

表す期間に主節の表す事態の時が含まれる場合、④ 時間節が表す期間と主節の表

す事態の時が同時である場合がある。それぞれ次の形式で表される。

① とき おり さい (に) ころ 瞬間 と同時に たび (に) ごとに につ
け, etc.

② 前 (に) 以前 (に) まぎわに 矢先に までに あと (で/に) のち
(に) テ形+から 以後 直後に やいなや, etc.

③ あいだに うちに まに 最中に すきに ところに なか, etc.

④ あいだ まで とともに につれて, etc.

①～④ の例文を以下に挙げる。

(21) 出張で札幌に行ったおりに先生にお会いしました。①

(22) 今年になってから彼に一度も会っていない。②

(23) 家を出ているすきに泥棒に入られた。 ③

(24) みんなが真剣に話し合っている間、彼はずっと居眠りをしていた。 ④

①には反復を表す次のようなものがある。

(25) 父は出張に行くたびにお土産を買ってきてくれる。

(26) その写真を見るにつけ、昔のことが思い出される。

また、④には従属節の表す事態の進行に伴って主節の表す事態が進行する意を表すものがある。このタイプは「の」を介して接続することもできる。

(27) a. 故郷の町は、人口が増えるに従って、自然が失われていった。

b. 故郷の町は、人口が増えるのに従って、自然が失われていった。

もくてきせつ
5. 目的節

もくてきせつ しゅせつ あらわ どうき もくてき あらわ せつ もくてきせつ あらわ けいしき
 「目的節」とは、主節の表す動作の目的を表す節である。目的節を表す形式と

ようれい い か しめ
 用例を以下に示す。

ため (に) よう (に) のに どうしれんようけい 動詞連用形+に べく

たいじゅう お かよ はじ
 (28) 体重を落とすために、スポーツジムに通い始めた。

かぜ ひ き
 (29) 風邪を引かないように気をつけてください。

こ ようふく か い
 (30) 子どもの洋服を買いにデパートに行った。

すみ もんだい かいけつ どりょく
 (31) 速やかに問題を解決すべく努力いたします。

もくてきせつ あらわ じたい しゅせつ あらわ じたい せいりつ お じたい
 目的節に表される事態は、主節で表される事態が成立するよりあとに起こる事態
 である。そのために、目的節にはタ形（過去形）が用いられることはない。タ形が用い
もくてきせつ けい か こけい もち けい もち
 られている次の (32) は目的節ではなく、原因・理由節の解釈を受けることになる。
つぎ もくてきせつ げんいん りゆうせつ かいしゃく う

にほん りゅうがく にほんご べんきょう
 (32) 日本に留学したために日本語を勉強しました。

6. 従属節の従属度

従属節には、主節に現れる表現のすべてが現れるわけではない。例えば、

「複文 (1)」の「4. 補足節」の箇所で述べたように、終助詞の「よ」や「ね」などは、

直接引用の引用節を除いては従属節に出現しない。直接引用の引用節が主節と変わ

らぬ独立性を保っているのに対し、主節の様態を表す「ながら」や「つつ」などの

従属節は、主語やテンスやモダリティを主節に依存する、極めて従属度の高い節であ

る。そのため、以下の b や c の様に、従属節の中にテンスやモダリティの形式を入れ

ると許容できない文となる。

(33) a. 子ども達は、歌を歌いながら歩いて行った。

b. *子ども達は、歌を歌ったながら歩いて行った。

c. *子ども達は、歌を歌うだろうながら歩いて行った。

(「*」は、この文が許容できないことを示す。)

このように、従属節には、主節に対する従属度が低いものから高いものまでさま

ざまなレベルが存在する。

従属節の従属度を測る指標としては、以下のものがある。

① 主題の「は」が出現するかどうか。

② 丁寧体のスタイルが出現するかどうか。

③ テンスの対立があるかどうか。

④ 「だろう」「(よ)う」などのモダリティ形式が現れるかどうか。

例えば、等位節の (34) では主題の「は」が出現するが、並列節の (35) では出現しないため、(35) の b は非文である。このことから等位節のほうが並列節より従属度が低い (= 独立性が高い) ことが分かる。

(34) 平野部は暖かいが、山間部は厳しい寒さが続いている。

(35) a. この曲 がいいかその曲 がいいか、聞き比べてみよう。

b. *この曲 はいいかその曲 はいいか、聞き比べてみよう。

キーワード：

ふくしせつ じょうけんせつ げんいん りゆうせつ じかんせつ もくてきせつ ほうそくてき じょうけん こべつてき じょうけん
副詞節 条件節 原因・理由節 時間節 目的節 法則的な条件 個別的な条件

かくていじょうけん かていじょうけん いんがかんけい じゅうぞくど
確定条件 仮定条件 因果関係 従属度

